

宮崎県感染症週報

宮崎県感染症情報センター
宮崎県健康増進課
宮崎県衛生環境研究所

■ 宮崎県第 39 週の発生動向

定点医療機関からの報告総数は 667 人（定点あたり 21.6）で、前週比 122%と増加した。

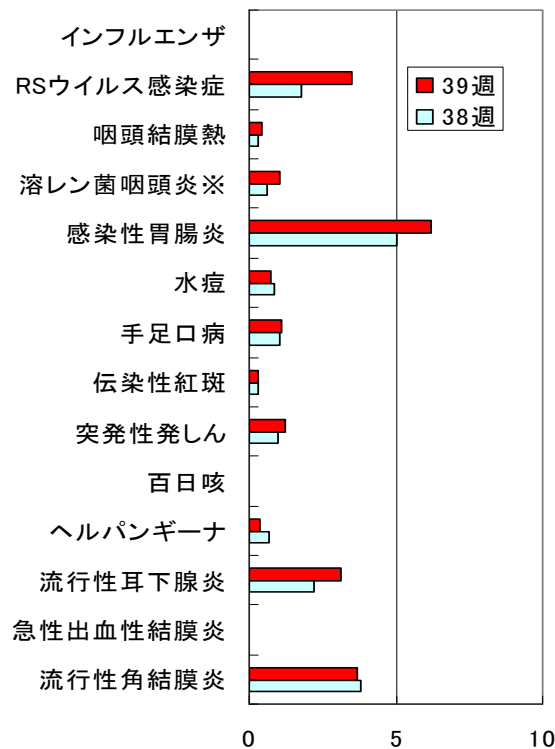
先週に比べ多かった主な疾患はRSウイルス感染症、流行性耳下腺炎と感染性胃腸炎で、減少した主な疾患はヘルパンギーナと水痘であった。

RSウイルス感染症の報告数は 125 人（3.5）で前週比 198%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値（0.6）の約 5.8 倍と多い。延岡（14.3）、日向（6.8）保健所からの報告が多く、年齢別では 6 ヶ月から 2 歳で全体の約 8 割を占めた。

流行性耳下腺炎の報告数は 112 人（3.1）で前週比 142%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値（1.3）の約 2.3 倍と多い。延岡（9.3）、日向（6.8）保健所からの報告が多く警報レベルを超えている。年齢別では 3 歳から 5 歳で全体の約 7 割を占めた。

感染性胃腸炎の報告数は 223 人（6.2）で前週比 123%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値（5.3）の約 1.2 倍である。中央（18.0）、都城（10.3）からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 4 歳で全体の約 6 割を占めた。

《前週との比較》



《定点あたり報告数》
※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

■ 保健所別流行警報開始基準値超過疾患

	流行警報 開始基準値	定点あたり報告数		年齢分布
		宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
流行性耳下腺炎	6	3.1	延岡(9.3)、日向(6.8)	3歳～5歳で全体の約7割を占めた。

■ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 3 例が宮崎市・小林・日向 (各 1 例) 保健所から報告された。
《宮崎市保健所》・30 歳代の男性で肺結核。
《小林保健所》・80 歳代の男性で疑似症患者。食欲不振、全身倦怠感がみられた。
《日向保健所》・80 歳代の男性で肺結核。咳、痰がみられた。
- 3 類感染症 : ○細菌性赤痢 1 例が高鍋保健所から報告された。80 歳代の男性で発熱、下痢、
膿粘血便、嘔吐がみられた。
○腸管出血性大腸菌感染症 1 例が都城保健所から報告された。80 歳代の女性で
水様性下痢、血便がみられた。原因菌の血清型は 0157 (VT2 産生)。
- 4 類感染症 : レプトスピラ症 1 例が宮崎市保健所から報告された。20 歳代の男性で発熱、筋
肉痛、結膜充血、黄疸、蛋白尿、腎不全がみられた。
- 5 類感染症 : 報告なし。

■ 全国第 38 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 8.0 で、前週比 82%であった。今週増加した主な疾患はなかった。減少した主な疾患はヘルパンギーナと咽頭結膜熱であった。

水痘の報告数は 1,537 人 (0.51) で、前週比 104%とほぼ横ばいであった。例年同時期の約 1.1 倍である。福井県 (1.6)、徳島県 (1.3)、和歌山県 (1.1) からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 4 歳で全体の約 7 割を占めた。

RS ウイルス感染症の報告数は 715 人 (0.24) で、前週比 96%とほぼ横ばいであった。例年同時期の約 1.5 倍である。宮崎県 (1.8)、佐賀県 (1.3)、鹿児島県 (1.1) からの報告が多く、年齢別では 2 歳以下で全体の約 9 割を占めた。

□全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 197 例
- 3 類感染症 : 細菌性赤痢 9 例、腸管出血性大腸菌感染症 102 例
- 4 類感染症 : A型肝炎 2 例、エキノコックス症 1 例、デング熱 9 例、日本紅斑熱 1 例、ライム病 1 例、レジオネラ症 14 例、レプトスピラ症 2 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 4 例、後天性免疫不全症候群 11 例、ジアルジア症 1 例、梅毒 7 例、破傷風 1 例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 4 例、麻しん 3 例

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2010年 第39週(09月27日～10月03日)

疾病名		第38週	第39週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	63	125	14	15	57	6		6		27	
	定点あたり	1.75	3.47	1.40	2.50	14.25	2.00	0.00	1.50	0.00	6.75	0.00
咽頭結膜熱	報告数	11	15	10	1	2	2					
	定点あたり	0.31	0.42	1.00	0.17	0.50	0.67	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	21	38	10	1	8	4	2	4		4	5
	定点あたり	0.58	1.06	1.00	0.17	2.00	1.33	0.67	1.00	0.00	1.00	5.00
感染性胃腸炎	報告数	182	223	34	62	8	15	28	23	3	32	18
	定点あたり	5.06	6.19	3.40	10.33	2.00	5.00	9.33	5.75	3.00	8.00	18.00
水痘	報告数	30	26	13	5	4			3		1	
	定点あたり	0.83	0.72	1.30	0.83	1.00	0.00	0.00	0.75	0.00	0.25	0.00
手足口病	報告数	38	39	6	8	12			9		3	1
	定点あたり	1.06	1.08	0.60	1.33	3.00	0.00	0.00	2.25	0.00	0.75	1.00
伝染性紅斑	報告数	11	10	1	6			2				1
	定点あたり	0.31	0.28	0.10	1.00	0.00	0.00	0.67	0.00	0.00	0.00	1.00
突発性発しん	報告数	36	44	18	5	6	3	1	6		4	1
	定点あたり	1.00	1.22	1.80	0.83	1.50	1.00	0.33	1.50	0.00	1.00	1.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	25	13		2		11					
	定点あたり	0.69	0.36	0.00	0.33	0.00	3.67	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	79	112	6	9	37	16		12		27	5
	定点あたり	2.19	3.11	0.60	1.50	9.25	5.33	0.00	3.00	0.00	6.75	5.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	23	22	18	4							
	定点あたり	3.83	3.67	6.00	2.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数	1										
	定点あたり	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数

下段:定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2010年第1週～第39週)

2類感染症	結核	158例(3)			
3類感染症	細菌性赤痢	1例(1)	腸管出血性大腸菌感染症	47例(1)	
	E型肝炎	1例	A型肝炎	3例	つつが虫病 1例
4類感染症	デング熱	1例	日本紅斑熱	3例	マラリア 2例
	レジオネラ症	2例	レプトスピラ症	2例(1)	
	アメーバ赤痢	3例	ウイルス性肝炎	7例	急性脳炎 6例
5類感染症	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	後天性免疫不全症候群	3例	梅毒 5例
	破傷風	4例	麻しん	1例	

()内は今週届出分、再掲

こども感染症情報

RS ウイルス感染症が増えています。(9 月 27 日～10 月 3 日)

気温が下がり乾燥する季節になりました。冬の感染症に注意しましょう。

インフルエンザの報告はまだ少ないですが、RS ウイルス感染症の報告が増えています。今年は例年より早く流行し始めており、過去 5 年間の同時期で一番多い報告数となっています。

ウイルスによる呼吸器の感染症で、かぜのような軽い症状も含めて多くの子どもがかかります。乳幼児では細気管支炎、肺炎など重症化しやすく、注意が必要です。痰が詰まったような咳やゼーゼーとのどが鳴るなどの症状がみられたら早めに医療機関を受診しましょう。感染力が強く、免疫ができにくいため繰り返し感染しますが、何度もかかるうちに徐々に免疫ができて症状は軽くなります。患者さんの咳の飛沫を吸い込んだり、ウイルスが付着した手指や物を介して感染します。

予防はかぜやインフルエンザと同様で、外出後の石けんによる手洗い、うがいを必ず行いましょう。また、バランスの取れた食事を摂り、十分な睡眠と規則正しい生活を心がけましょう。

感染性胃腸炎、おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）の報告も増えているので、注意しましょう。